

開催	第60回総会 明日の消化器外科医とともに
開催年月日	2005年7月20日（水曜日）21日（木曜日）22日（金曜日）
開催地	東京 新高輪プリンスホテルほか
会長名	 <p>跡見 裕 (杏林大学医学部外科学教室)</p>
会長講演	明日の消化器外科医とともに
講演	<p>(特別企画) 医の倫理をめぐる医師会, 学会などの役割 (森岡 恭彦)</p> <p>(招待講演) 細胞内物質輸送と生命の“要”, 分子モーター-Kinesin superfamily proteins ; 構造, 動態, 機能, 疾患 (廣川 信隆)</p> <p>(教育講演) 個人情報保護と医学研究 (稲葉 一人)</p> <p>(緊急特別企画) 日本の医療—その光と影— (櫻井 秀也, 五阿弥宏安, 鈴木 利廣, 李啓充, 万代 恭嗣)</p> <p>(特別企画) 1. 世界における我が国の消化器外科学 2. 明日を担う消化器外科医の育成 3. 消化器外科の過去・現在・未来 4. 明日を担う消化器外科医のための臨床局所解剖</p>
シンポジウム	<p>(インターナショナルビデオシンポジウム) 1. 直腸癌手術 2. 膵頭十二指腸切除術 (シンポジウム) 1. 消化器外科におけるガイドライン—問題点と今後の展望 2. 消化器癌における遺伝子・プロテオミクス解析の進歩 3. 消化器癌化学療法の最適化をめぐって 4. 術後感染予防—国際的標準と我が国の現状 5. Sentinel navigation surgeryの現状と今後の展望 6. 鏡視下手術の今日的意義—その功罪 7. 癌に対するリンパ節郭清の意義を考える 8. 消化器外科領域における肝不全の病態と対策—基礎と臨床 (ビデオシンポジウム) 1. 安全な肝切除を目指して—手術手技の工夫 2. 胃切除後の再建をどうするか—術式の新しい工夫 3. 食道癌に対する鏡視下手術 4. 膵胆道癌における血管合併切除の意義—適応と限界 5. 消化器外科画像診断の最前線</p>
パネルディスカッション	<p>1. 進行膵癌に対する新たな治療戦略 2. 直腸癌に対する腹腔鏡下手術 3. Cholangiocarcinomaの治療戦略 4. 胸部下部食道癌の外科治療はどう変わったか 5. 肝細胞癌の治療法をめぐって 6. 術後合併症と医療過誤 7. スキルス胃癌の新しい治療戦略—外科治療か化学療法か 8. 大腸癌術後のフォローアップをどうするか 9. 胆嚢癌に対する切除術式の選択とその根拠 10. 成人生体肝移植の現状と問題点 11. 逆流性食道炎—外科治療をめぐって</p>
ワークショップ	<p>1. 膵管内乳頭粘液性腫瘍—診断と治療の問題点 2. 手術侵襲の評価の標準化 3. イレウス診療の進歩 4. 炎症性腸疾患外科治療の問題点 5. GIST—診断と治療の問題点 6. Translational researchはどこまですすんでいるのか 7. 大腸早期癌治療の問題点</p>
その他	<p>(一般演題：口演) 761演題 (一般演題：ビデオ) 122演題 (一般演題：ポスター) 1,115演題 (ランチョンセミナー) 31題 (イブニングセミナー) 4題 総査読数3,096 採択数2,242 (主題；244, 一般演題1,998) 採択率72.4% 抄録集 </p>